

冬期災害に備えましょう

厳冬期に注意しなくてはならないのは、災害による電気・ガスなどライフラインの停止です。災害から身を守るだけでなく、停電時の寒さ対策など、冬の備えについても再度、確認しましょう。

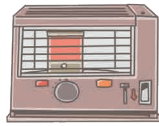
ライフラインが停止した場合に備えましょう

設備の損壊などで電気やガス、水道などが停止した場合、積雪により復旧作業の効率が下がるため、夏よりも長期にわたって使用できない可能性があります。

食料や飲料水など、季節を問わず必要な備えに加え寒さをしのぐ準備をしましょう。

冬の必需品

- カセットボンベや灯油式のものなど、電気を使わないポータブルストーブ
 - 毛布や寝袋
 - 使い捨てカイロ
 - 防寒着や温かい衣類、帽子、手袋など
- *暖房や調理などで使う、カセットボンベは多めに用意しましょう。



季節を問わず必要な備え

- 食料、飲料水
 - カセットこんろ、カセットボンベ
 - 懐中電灯やランタン、乾電池など
 - 携帯用ラジオ
 - 衣類、タオル
 - モバイルバッテリー
 - 普段飲んでいる薬や常備薬
 - 衛生用品（マスク・アルコール消毒液・体温計など）
- *おむつ、ペット用品など家庭の事情で必要な物も用意しましょう。

車も冬の装備に

雪が積る前にスタッドレスタイヤに交換するほか、長靴やスコップ、牽引ロープなどを用意しておきましょう。悪天候で車が立ち往生した場合に備えて、飲料水や非常食もあると安心です。

災害で電気やガスが使えないときに、寒さをしのぐ場所として、一時的に自家用車に避難することも想定されます。ガソリンなどの燃料は早めに給油しておきましょう。

問合せ 危機管理課（内線3344）

水道管の凍結に注意

寒さが厳しくなると水道管の凍結が増えます。水道管が凍結すると、水道が使えなくなるだけでなく、修理代など思わぬ出費につながります。凍結の恐れがあるときは、昼夜を問わず水抜きをしましょう。

こんなときは要注意

- 気温がマイナス4℃以下のとき
- 一日中、気温が氷点下の真冬日が続いたとき
- 旅行などで長期間水道を使用しないときや、空き家を管理しているとき（漏水事故を防止するためにも、季節に関わらず水抜きをしましょう）



凍結してしまったときは



水道管や蛇口などにタオルを巻き付け、上からぬるま湯をゆっくりかけます。熱湯を直接かけたり、直火を当てたりすることは絶対にやめましょう。水道管や蛇口が破裂する危険があります。

30分ほど待っても水が出ないときは、市の指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。費用は自己負担です。

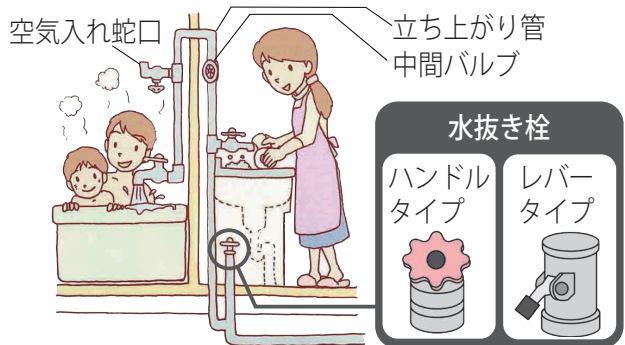
指定給水装置工事業者が分からないときは、問い合わせてください。市ホームページ「くらしの情報→上下水道→水道・下水道事業者一覧」からもご覧になれます。

水抜きをするとき

- ①蛇口を開け、水を流す
 - ②水抜き栓のハンドルが止まるまで右に回す（レバーの場合は「止」の方向に操作する）
 - ③空気入れ蛇口がある場合は、全開にする
 - ④しばらくしてから空気入れ蛇口と蛇口を閉める
- *給湯器の水抜きは、取扱説明書に従ってください。

水を出すとき

- ①空気入れ蛇口と蛇口が閉まっていることを確かめる
- ②水抜き栓のハンドルを止まるまで左に回す（レバーの場合は「出」の方向に操作する）
- ③蛇口をゆっくり開ける



水抜き栓とは…

水道管の水を抜くための装置です。設置されている場所は、家庭によってさまざまです。普段から、水抜き栓の場所と動作を確認しておきましょう。

問合せ 水道施設課（内線4311）